

都城市議会議長 様

提出日 令和4年7月25日

氏名 小玉 忠宏

研 修 報 告 書

以下のとおり研修の報告をいたします。

1 所属会派名

自由民主党有志会

2 研修名

ロシアのウクライナ侵略と日本の安全保障について考える宮崎県民集会

3 受講場所

宮日会館11階ホール

4 受講日時

令和4年7月16日(土) 14:00~16:00

6 研修の感想

ロシアによるウクライナ侵略戦争は、ウクライナのNATO加盟を阻止しようとする先制攻撃である。ウクライナは何故戦うのか。ロシアが戦いをやめれば戦争は終わるがウクライナが戦うことをやめれば国を失う。1945年に不可侵条約を破棄しスターリンは日本の北方領土を侵略し返還しないように、ウクライナ人はロシアに負けることの恐ろしさを知っている。

アメリカが日米安保条約のもとで本当に日本の為に戦ってくれるだろうか。アメリカ兵にも国があり家族が居る。ウクライナの現実からも理解出来ると思うが、平和憲法が日本が守ってくれるであろうか。日本国憲法は、戦勝国アメリカのGHQによって作られた憲法で戦後75年を経た今日に於いても一字一句変えてない。中国から見れば「日本は戦争に負ければ従う国である。」と理解させることでもある。

ウクライナ人は自ら武器を取り、国際社会からも武器の支援を受けているが、ロシア領土への攻撃は認められず専守防衛の戦いである。侵略戦争がもたらすウクライナ人の犠牲は全ての国民に及び、ロシアは国民を集団拉致し子ども達は親と引き離してロシア人の家庭に送り込みロシア化を進めている。

日本は島国で食糧自給率は38%、海上封鎖が行われれば食料は枯渇し餓死することが予測できる。国外脱出も船や飛行機が必要、宮崎県の人口百五十三万人の国外脱出を例にしても船や飛行機がどれだけの必要か。

沖縄は明治時代に日本が統合しているが、歴史的には沖縄は中国との関わりが強くまた日本は沖縄を差別してきた。何処の国も侵略国家は後出しジャンケンをする。

ロシアや中国、北朝鮮等共産国家による武力的脅威は、日本が武力を付けパワーバランス

スを高めて世界に訴えることが重要である。

以上、ロシアのウクライナ侵略戦争や日本の安全保障について、在日ウクライナ人ナザレンコ・アンドリー(28歳)さんの堪能な日本語による真剣な訴えとも思える講演に、ウクライナ侵略戦争と日本の安全保障の在り方や備えについて、考えさせられる時間となった。国際社会が自由主義国家と共産主義国家を二分するような現状に於いて、我が国の存続と防衛の課題は喫緊の課題でもあると理解できた。

7 研修の成果及び市政への反映

ロシアのウクライナ侵略から学ぶ、日本の安全保障の在り方と防衛や憲法改正の課題については、市民の求めにも学びを判断材料にして自らの考えを示し議会活動に努める。

8 添付資料

(1) ロシアのウクライナ侵略と日本の安全保障について考える宮崎県民集会案内文書

都城市議会議長 様

提出日 令和4年7月19日

氏名 成合 円美佳

研修報告書

以下のとおり研修の報告をいたします。

1 所属会派名

自由民主党有志会

2 研修名

ロシアのウクライナ侵略と日本の安全保障について考える宮崎県民集会

3 受講場所

宮日開館 1 1 階ホール

4 受講期間

令和 4年 7月 16日（土） 14:00～16:00

5 研修内容

ウクライナ東部ハルキウ出身のナザレンコ・アンドリー氏の講演を聞くことで、ウクライナの実態とこれからの日本がどのような対応をとっていけばいいのか、生の声から学ぶ会であった。後半は、日本会議地方議員連盟の中野一則会長（宮崎県議会議長）や、日本会議宮崎顧問である吉田好克氏、日本会議地方議員連盟宮崎県市町村議会幹事長である北林幹雄（延岡市議会議員）の3人も登壇し、シンポジウムも行われた。

6 研修の感想

日本とウクライナは国民の考え方も瓜二つであり、むしろ日本のほうが脆くて危険な状況に置かれていることが分かった。「専守防衛」という言

葉は聞こえはよく、平和を象徴するようであるが、実際のところ、専守防衛であるがために、ウクライナはロシア本土への反撃はできず、結果的に本土決戦となって、犠牲者が出続けていることを理解した。参議院選挙も終わったばかりだが、やはり、国会議員には一日でも早く憲法9条の改正と日本が侵略されないための手立てを固めてほしいと思った。日本を強くしたいと発言すると、まるで、戦争を起こそうとしているかのように捉えられることも少なくない。しかし、弱いから守ってくれるという保証もどこにもない。何もない平和を願いたい、願っているだけでいいという国民感覚や外交でどうにかなるといふ甘い考えはいかなるものか。様々な報道が角度をつけて行われているなかで、一人一人がしっかりと勉強し、現実を知って、具体的な対策を取っていくことが大切だと感じた。

7 研修の成果及び市政への反映

他人事じゃないことが分かった一方で、都城という小さな枠組みの中で、どのような対策を講じることができるのか、私たち議員は市民よりも高い警戒感を持ち、先を見据えて問題点を列挙し、改善策について議論していかねばならないと感じた。例えば、食料自給率がこのままでいいのか、都城自体の自給率はどのようなものか、また、休耕地が増えるのを防がないでいいのか、家庭菜園を促進し始めるべきではないのか、万が一のシェルターのために地下の固定資産税はどうなっているのかなど、市民が自分の命を守るために、今から把握しておくべきことはたくさんある。難民を受け入れたその先と、日本人がすべきことを議会でも考え始めなければならないのではと思った。

8 添付資料

- ・研修画像等

ロシアのウクライナ侵略と日本の安全保障 について考える宮崎県民集会



ウクライナ国旗



ナザレンコ・アンドリー

1995年ウクライナ東部ハルキウ生まれ。首都キーウと出身地ハルキウ市で、親欧米側学生集団による国民運動に参加。2014年8月来日。大学で経営学を学ぶ。現在は国際貿易会社に勤務する傍ら、幅広い言論活動を展開し、注目を集めている。

在日ウクライナ人のナザレンコ・アンドリー氏を宮崎にお招きし、侵略国ロシアと戦う祖国ウクライナの人々の思いを語っていただきます。

この軍事侵略は、東アジアの安全保障環境にも大きな影響を与えています。

侵略の実態を知り、我が国の安全保障を考える本集会へのご参加をお待ち申し上げます。

日時：令和4年 **7月16日(土)** 14:00~16:00 (開場 13:30)

会場：宮日会館 11階ホール 宮崎市高千穂通1-1-33
※宮崎中央郵便局の東隣。宮日会館に専用駐車場はございません。

講師：ナザレンコ・アンドリー 氏

参加費：1,000円 ※残金が出た場合は日本赤十字社を通じてウクライナ支援金といたします。

主催：日本会議地方議員連盟 宮崎県議会

日本会議地方議員連盟 宮崎県市町村議会

共催：日本会議宮崎

後援：宮崎県議会北朝鮮拉致問題解決促進議員連盟、宮崎県遺族連合会、宮崎県隊友会、宮崎県借行会、
(順不同) 国防を考えるえびの市有志の会、日本李登輝友の会宮崎県支部、宮崎県防衛協会・青年部・女性部



※事前申込が必要です。先着125名限定。当日はウクライナ支援金のための募金箱を準備いたします。

申込書 参加申込みは、下記にご記入の上、FAXまたは、お電話にてお申込みください。(事務局:日本会議宮崎)

FAX 0985-73-8240 TEL 0985-73-8241

7月16日 宮崎県民集会に参加します。

ご氏名 小和 忠宏

ご住所 〒885-0053 都城市上東町19-18 TEL (0986) 23-0709

参加人数 (2) 人 ※ お連れの方がいらっしゃる場合は人数をご記入ください (申込者本人を含む)。

ロシアのウクライナ侵略と日本の安全保障
について考える宮崎県民集会

主催：日本会議地方議員連盟 宮崎県議会、日本会議地方議員連盟 宮崎県市町村議会



北林 幹雄
古田 好之

中野 一剛